

平成13年度舩倉島僻地総合診療実施報告書

平成13年8月9日
舩倉診療所所長 黒瀬亮太

平成13年度舩倉島僻地総合診療は8月4日、5日の2日間にわたり実施され、皆様のご尽力により、お蔭様で無事に終了することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

本年度の実施状況を以下に報告いたします。

1. 日程

全科とも平成13年 8月4日(土)午後1時から午後7時、および
8月5日(日)午前9時から午前12時

2. 場所

舩倉島総合開発センター内

玄関ロビー ; 受付、待合室
診察室 ; 外科
保育室1 ; 心の内科
保育室2 ; 内科
検査室 ; 眼科、レントゲン撮影
コンピュータ室; 耳鼻咽喉科、オーディオグラム

3. 診療科目

内科、外科(上部消化管内視鏡、乳癌検診)、耳鼻咽喉科、眼科、心の内科(精神科)

4. 診療従事者

内科	山田 真也	医師 (市立輪島病院)
	宮井 千浪	看護婦(石川県立中央病院)
外科	永嶋 清和	医師 (公立穴水総合病院)
	吉本 とく子	看護婦(石川県立中央病院)
耳鼻咽喉科	小森 貴	医師 (小森耳鼻咽喉科医院)
	沖野 優子	看護婦(石川県立中央病院)
眼科	山村 敏明	医師(やまむら眼科医院)
	田上 景子	保健婦(輪島市長寿保健課)
心の内科	加藤 佐敏	医師 (かとうクリニック)
受付	奥村 二郎	次長(県庁健康福祉部)
	喜田 孝雄	課参事兼課長補佐(同医療対策課)
	永田 厚子	主査(同医療対策課)
	酒井 健太郎	医員(同医療対策課)

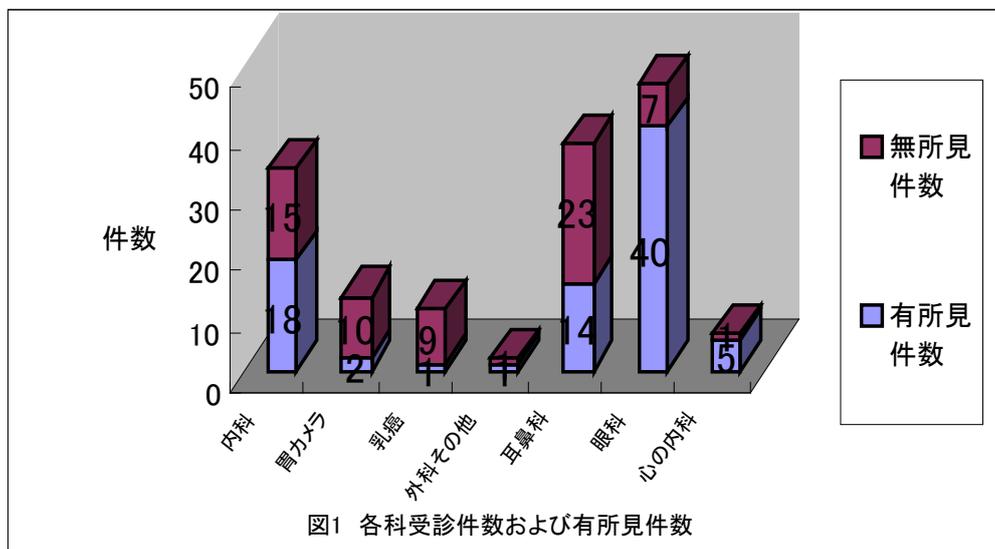
協力 松本グローバルメディカル社より
 松本 義夫 氏
 横田 維靖 氏
 その他 黒瀬 亮太 医師(舳倉診療所)

5. 受診状況および診療結果

表1 各科受診人数

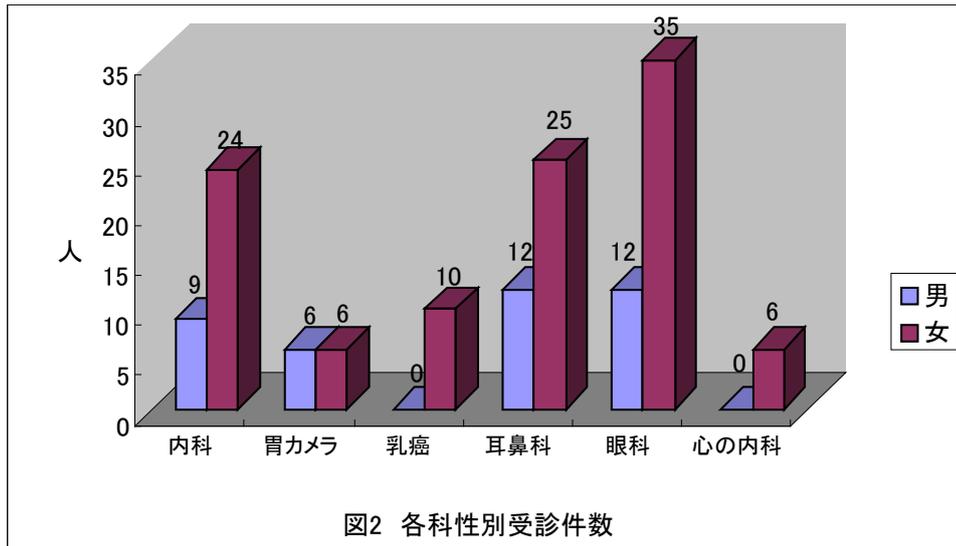
科名	8/4	8/5	計	男	女
内科	28	5	33	9	24
胃カメラ	9	3	12	6	6
乳癌	10	0	10	0	10
外科その他	2	0	2	0	2
耳鼻科	34	3	37	12	25
眼科	46	1	47	12	35
心の内科	6	0	6	0	6

注:外科その他は甲状腺の精査を希望した2名



受診者数はのべ147名。実人数77名が受診した。各科専門医の診察の結果、総受診件数147件中81件(55.1%)において、何らかの所見が認められ、それぞれに対し、所見の指摘、治療計画の指示、治療がなされた。ただし、統一された有所見・無所見の区別の基準があるわけではなく、各科を比較することにはあまり意味がない。

実際に、直ちに更なる精査・加療が必要とされた症例は、どの科においても約1~2割という印象である。

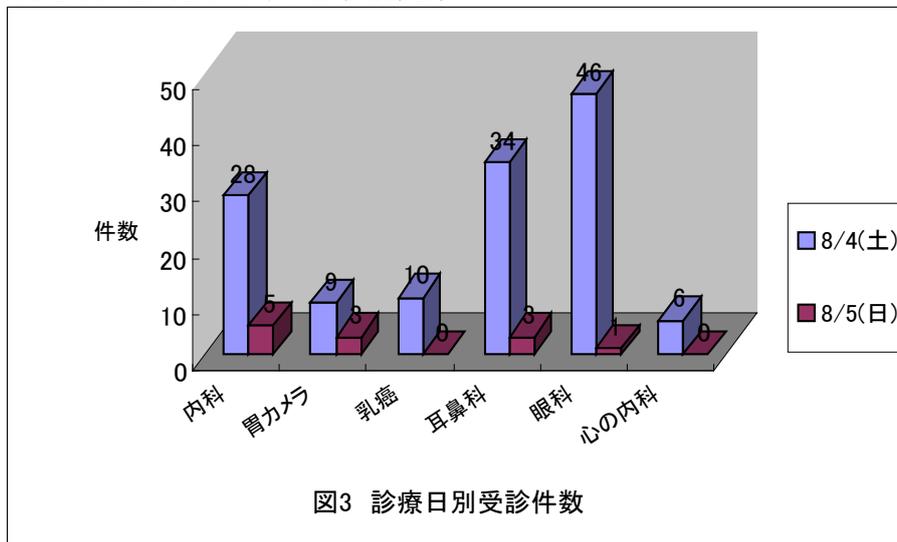


注：図中に「外科その他」は含まれない

海女の島であることを反映し、どの科においても女性の受診の方が多い。

また、男性の受診が比較的少ない背景には、当日8月4日(土)に漁協のさし網協会総会が輪島市で開かれ、多くの青壮年男性が午後3時の定期船で島を離れたことがあると考える。

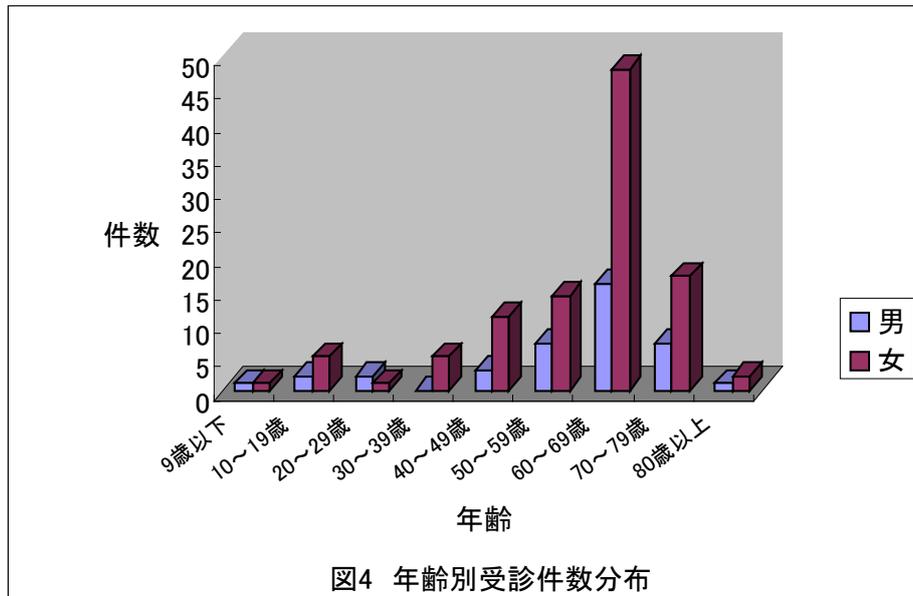
斯くの如く、受診者数はその年々の偶発的な状況、即ち天候や、休日の状況、或いは何らかの行事といったものに左右されやすいようである。



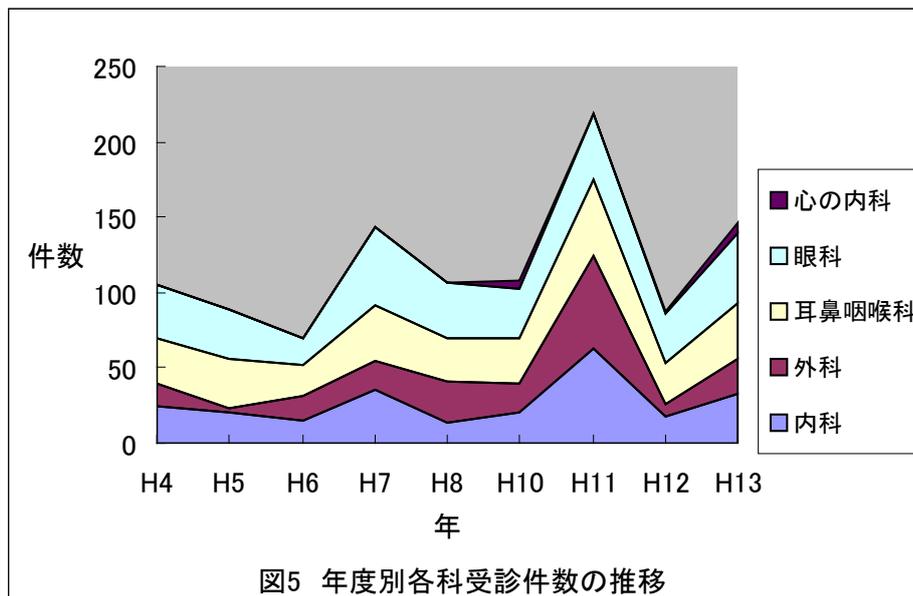
注：図中に「外科その他」は含まれない

8/4(土)のみが沖休みであったことを如実に反映し、殆どの受診者が8/4に集中した。より多くの島民が受診出来る為には、2日間のうち少なくとも1日は沖休みであることが不可欠であることをいみじくも示している。

また実際には8/4のうちでも受付開始の午後1時から数時間の間に大部分の島民が受診し、一部に数時間待ちの状況も生じた。



島内の人口比をほぼ反映したものとも言えるが、図2で述べた輪島市本土での総会の影響もあり、30～49歳の青壮年層の受診が比較的少ない。逆に普段より診療所を受診する機会の多い60～69歳の、特に女性の意識は高く、殆どの方が受診している。



8/4(土)を予め沖休みとしたことにより多くの受診があり、全体でここ10年間でも2番目に多い受診件数となった。

6.各科診療内容

a.全体総括

島内自治会での話し合いにより、本年より以後、例年総合診療の開催されている8月第1週に、沖休みが当てられることになった。これまでは年によって受診者数にばらつきがあり、即ち、首尾良く沖休みに合わせて開催出来た年の受診者数は多く、そうでない年は少ない、という傾向がみられたが、本年よりは受診を希望する島民が受診しやすい環境が提供されることとなり、島民にとってこの総合診療の開催が、ますます意義深いものになるであろう。

また、このことは、島民がこの総合診療を、非常に重要で優先させるべきものと捉えていることの、何よりの傍証である。

一年目の今年、受診件数はのべ147人、実人数77人と、上々の滑り出しと言える。

b.内科

本年度も、血圧・血糖測定、検尿、心電図検査を施行した。

受診者全例にこれらを行うことは、決して楽ではない作業である。スタッフの奮闘に感謝する。

この内科診療の目的は、普段ルーチンには行わない上記の検査における異常所見を、早期にピックアップすることであると言えよう。今年も半数以上に何らかの所見を認め、検査・治療の指示がなされた。

特に今年は、今後の日常診療にこの結果を活かすべく、記録した心電図を全例日常のカルテに閉じ、折に触れてその後の心電図と比較検討できるようにした。

写真1 内科診療の様子



c.外科(上部消化管内視鏡、乳癌検診、甲状腺)

胃カメラによる健診を今年も行った。この検診は、これまで継続的に施行してこられた高島医師のご努力により、島民の間にすっかり定着している。実際にこの検診で早期胃癌を発見され、手術により見事に社会復帰を果たした方も過去にあったとのことで、島民の期待は大きい。今年は1

2名の受診があり、うち2名に有意所見を認めた。胃粘膜生検は、多少の危険が伴うこともあり、当初よりの方針として積極的には行わないこととし、実際に今年は施行されなかった。

また本年は、昨年都合により行われなかった乳癌検診を再開した。簡便で侵襲が少なく、時間もかからないことから、本総合診療の主旨に沿うものであると考える。一昨年35名もの受診者があったとのことで、需要は多い。今年は10名が受診。うち1名に所見があり、フォローを要するとされた。

また、島民の要望により、超音波検査を含めた甲状腺検診が2名に行われた。

写真2 外科診療の様子



d.耳鼻咽喉科

本島は漁師と海女の島であり、特に潜水シーズンには耳、鼻、のどに関する訴えが非常に多く、不安を抱えている島民が多い。専門的な耳鼻科診療のニーズが高いことは、日常診療上肌で感じるところである。

担当の小森医師は、すっかりお馴染みの先生として、島民の厚い信頼を得ている。

本年も、喉頭ファイバー、副鼻腔X線検査、オージオメーター等を用いた、充実した専門医健診を施行していただいた。37人の受診中、14人に所見を認め、治療の指示がなされた。一方、無所見とされて不安が解消される人が多いのも大きなプラスである。

写真3 耳療の様子



鼻咽喉科診

e.眼科

本島に勤務経験もある山村医師が、今回で実に19回目という長きにわたり、診療を継続してこられた。毎年受診する方、また年一回の唯一の眼科的フォローの場として心待ちにしている方が多く、その重要性は言を待たない。

本年は従来とはややスタイルを変更し、手持ち細隙灯による前眼部検査と無散瞳眼底カメラによる眼底検査を中心に行い、調節検査、眼圧検査等は必要時のみの施行とした。眼底カメラは(株)松本グローバルメディカルのご厚意により、本年初めて当健診に導入され、スクリーニングとして眼科受診者のほぼ全例に施行した。中にはこの検査によって眼底出血を早期に発見し得た者もあった。

全科中最多の47人の受診があり、殆どの症例で何らかの所見を認めた。

写真4 眼科診療の様子



f.心の内

科

本年特記すべきこととして、心の内科受診者数の増加が挙げられる。平成10年に始まり今年で

3回目を数えた診療科であったが、加藤先生の不断のご努力に依るものであることは勿論、これまでの総合診療で地道に普及の努力をすすめてきた診療所医師の活動が結実し、島民の心の内科への認識が、徐々に高まってきていると言えるのではないだろうか。しかし島民の間では精神科に対する認識はまだまだ低く、潜在的な需要はさらに多数存在するものと思う。継続的な啓発と共に、島民のため、今後も当診療科を継続していくことを望む。

写真5 心の内科診療の様子



7.反省および今後への提言

今年は診療1日目終了後、スタッフ全員による反省会を行った。40分間ほどの会であったが、活発に意見交換がなされ、非常に有意義であった。以下に、各科毎にその要点を記す。

(a)全般

- ・整理券制につき。多科を受診する人も多いことから、番号順にこだわると、診察に空き時間が出てしまう。整理券の番号にかかわらず、待っている人をどんどん入れるべき。
- ・8/4(土)の午後1時、受付開始と同時に受診者が殺到した。もし可能ならば、受診者毎に大体の受診時刻を決めておけば、混乱は避けられるのではないか。←胃カメラ以外の診療科の予約は有名無実化している現状なので、実際には困難が予想される。
- ・また、そのようなことは、住民に対し、今後どうしていくのが望ましいかアンケートを採ることも一法ではないか。
- ・診療時間につき。島民の仕事の状況に合わせて考えるべき。即ち、1日目は沖休みなので、必ずしも遅い時間まで診療する必要はない。また、2日目はいつも通り仕事があることから、場合によっては早朝の受診を受け入れる等。特に胃カメラは、絶飲食指示であることもあり、住民からの要望がある。

(b)内科

- ・普段のカルテの参照につき。問題ありと思われる症例については、普段のカルテを見たい場合

もある。そのようには出来ないか?←予めのカルテ出しは困難だが、必要に応じて自分で出してもらうようには出来ると思う。

・全例に心電図を記録していることもあり、やや人手が足りない。待ち時間が長くなりがちである。適宜他科のスタッフの応援があるといい。(今年は途中から外科で心電図をとってもらった。)

(c)外科

・胃カメラは絶食指示であることから、診療開始と同時に乳癌検診よりも先に診療したい。乳癌検診のみの受診者はその後になってしまうので、胃カメラと乳癌検診は予め診療時間を分けた方がいいのではないかと。

・検査前の絶食の指示は行き届き、概ね守られていたが、検査後の指示(食後2時間は飲食禁止等)が行き渡っていなかった。

・胃カメラは一本では、どうしても消毒時間が短くなってしまふ。(本年は、輪島病院から借用した一本と診療所備え付けの一本の計二本を準備していたが、洗浄不良のため後者は調子が悪く、事実上一本のみで行った。)

・胃カメラは完全予約制で受診者が把握できるため、感染症のチェックは予め出来るはず。

・胃カメラ検診については感染症の問題など議論もあるが、継続して本検診を続けてこられた高島医師の意志を最も尊重すべき。

・診察室のベッドは低く、胃カメラを施行しにくい。高くする工夫を。

(d)耳鼻咽喉科

・オージオメーターを施行する部屋は、騒音の問題があり、診療室とは別の個室とするべき。

・問診表を、カルテにきちんと貼り、脱落等無いようにすべき。

(e)眼科

・眼科診療には暗い部屋が適している。ロビーは明るすぎて不適である。

(f)心の内科

・今年を受診者数が多く、良かった。精神科受診に関しては、本人の意識が低い場合があり、パンフレットによる啓発や、医師の働きかけ等での積極的な受診の促しが必要。

・診療所で使用し得る薬の一覧表があると良い。

8.まとめ

今年も舳倉島恒例の夏の総合診療をつつがなく開催することが出来ました。ひとえに、関係の皆様方のご努力によるものであり、深謝いたします。

本総合診療は1982年(昭和57年)に石川県および輪島市が主催する「舳倉島における僻地総合診療」として開始されて以来、途切れることなく、今年で実に20年目を迎えました。

長期の継続の上に築かれた島民のこの総合診療に対する期待と信頼は改めて言うまでもなく、そのことは、今年よりこの診療の日程に合わせて休みを設置するという、住民の側からの歩み寄

りの姿勢が、何より雄弁に語っているものと思います。また、今回、事前に島を代表して区長が診療所をわざわざ訪れ、「今年から総合診療の日を沖休みとすることに島の方針として決めた。来られる先生方に、今後もこの総合診療の継続をよろしく申し上げますという旨、是非伝えて欲しい。」と伝言を託されたことを、申し添えておきます。

最後になりましたが、夏の総合診療がより良い形となり、来年以降もますます発展し、継続されていくことを祈念して、結びとさせていただきます。

今後も島民のため、ご支援の程、よろしくお願い致します。

9.謝辞

本健診の開催にあたり、ご尽力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

株式会社松本グローバルメディカル様のご協力により、無散瞳眼底カメラを無償で借用させていただきました。富木医療器七尾営業所様には、胃カメラ消毒洗浄用の洗剤を無償で提供していただきました。また、舩倉島区長吉浦甚雄氏、漁労長池端勝正氏をはじめ漁協関係者一同様、中野正氏には、とりわけ力添えを頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

写真6 集合写真



舩倉診療所 黒瀬亮太 拝